

モニタリングサイト 1000  
シギ・チドリ類調査説明書

## シギ・チドリ類調査の目的

干潟は、シギ・チドリ類、ガンカモ類、サギ類、カモメ類など多様な鳥類に利用されている。特にシギ・チドリ類の大部分は干潟を主な生活の場所とし、干潟の微生物・ゴカイ類・貝類・甲殻類等を採食する。シギ・チドリ類は、上記鳥類の中では個体数が比較的多く、干潟生態系の食物網の上位に位置し、より栄養段階の低い生物群（食物源であるゴカイ類、甲殻類、二枚貝類などや、その餌となるプランクトンなど）の変化の影響を受けやすいと考えられるため、干潟生態系の健全性を測る指標として、渡来数がモニタリングされてきた。本調査では、全国約 140 ヶ所の調査サイトにおいて、シギ・チドリ類、絶滅危惧種のズグロカモメ・クロツラヘラサギ・ヘラサギ・ツクシガモの個体数調査及び調査地周辺の環境状況の調査を行う。また、淡水性のシギ・チドリ類が集中して渡来する地域においては、水田や農耕地でのモニタリングも行う。

## 調査方法

### 1. 個体数の集計

1. 事業実施期間 2004 年4月～

2. 調査対象

シギ・チドリ類 (チドリ目レンカク科・タマシギ科・ミヤコドリ科・チドリ科・シギ科・セイタカシギ科・ヒレアシギ科・ツバメチドリ科)を調査対象とする。また、干潟に生息するズグロカモメ、クロツラヘラサギ、ヘラサギ、ツクシガモも調査対象とする。原則として、ズグロカモメ、ツクシガモは冬期のみ調査とする。

3. 調査期間(一斉調査日は前年の検討委員会で決定する)

春期: 4月1日～5月末日

一斉調査日: 4月中旬頃

秋期: 8月1日～9月末日

一斉調査日: 9月中旬頃

冬期: 12月1日～翌年2月末日

一斉調査日: 1月初旬頃

一斉調査日は、各調査期間中の全国に渡来するシギ・チドリ類の個体数把握に適した時期に設定する。毎年、上記と前後する日であることを条件に、調査員の参加が得られやすい日曜祝祭日で、大潮又は日中の干満差がなるべく大きい日を選定する。

#### 4. 調査回数

過去に環境省で実施したシギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査（1999年～2002年）の10回の調査の記録を元に、下記の基準により選定されたサイトタイプ：コアサイトにおいては、種ごとの最大数をより正確に把握するために、一調査期間につき3回以上行う。それ以外の一般サイトにおいても、3回以上の調査が望ましいが、困難な場合には1回の調査でも構わない。

##### コアサイトの選定基準

- ① ラムサール条約登録湿地に登録、もしくは東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワークに参加していること。
- ② ラムサール条約登録基準(付録I)を満たしていること。
- ③ 東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワークの参加基準を複数種以上が満たしていること。
- ④ 国指定鳥獣保護区もしくは、重要湿地500に指定されていること。
- ⑤ 全国レベルの調査にデータを提供した実績があること。

#### 5. 記録

各調査地において、集計用紙に調査の開始時刻及び終了時間、干潮時刻及び満潮時刻（調査時間帯に近い時刻を記入）、調査範囲内の対象種の個体数を記録する。また、調査地点名、調査地コード、調査地所在地、調査員氏名を記入する。各調査員は、最も多くの個体数をカウントできる時間帯を選定し、調査を実施する。よって、干潟・河口など潮汐のある環境下では、調査時間帯が満潮時であるか干潮時であるかは問わない。

#### 6. 一斉調査の集計

一斉調査日の前後1週間（15日間）に行われた調査を、一斉調査とする。

一斉調査以外の調査日は、調査期間内で個体数の多い時期に設定する。

春・秋・冬の各1回、全国で同じ日に調査を行うこととしているが、これはできる限り集中した期間にカウントを行うことにより、ある時点において日本全体に渡来しているシギ・チドリ類の総個体数の大部分を把握するためである。一斉調査日に調査ができれば、同じ群れを違う場所で重複してカウントしてしまうことを防ぎ、より正確な個体数の把握につながる。特に近接した地域内では、日時を合わせた調査が望ましい。

#### 7. 最大数の集計

各調査サイトにおけるシギ・チドリ類の観察記録より、種ごとに最も大きな数を抽出したものを最大数とする。この最大数を調査期間別（春期、秋期、冬期）に集計し、各調査サイトにおける渡来状況の季節変化や年変化を把握する。なお、集計対象は調査期間内に得られたすべての記録としており、集計で用いられた記録の回数は、一定ではない。